

何気なく知っていたモノ・コトが、
実は知る人ぞ知る「ゆざわ」ならではの魅力、
「地域のお宝」であることも。

特集

再発見!

地域のお宝

湯沢凧 編

江戸時代から続く

湯沢凧の歴史

湯 沢凧は、秋田藩によって編さんされた書物による
と、元禄年間（1688年～1704年）に原型
ができたと考えられています。

「武者絵凧」「歌舞伎絵凧」は、秋田藩が京都に上洛し
た際、絵筆の立つ湯沢の武士たちが錦絵を写しとり、凧
に描いたものが始まりとされています。

湯沢凧の代表的な絵柄「まなぐ凧」（まなぐは目の意）
は、江戸時代の文化年間（1804年～1818年）に
阿王平馬^{あおうへいま}という人物によって創案されたと伝わっていま
す。当時、ツツガムシ退治を祈願する絵を依頼された平
馬が、鬼女の顔絵を描いて雄物川沿いに立てたものが、
まなぐ凧の原画とされています。

文政年間（1818年～1830年）に高倉^{たかくら}案蔵^{あんざう}によっ
て描かれたまなぐ凧は、現存する最古のまなぐ凧といわ
れ、市の有形民俗文化財に指定されています。また、長
い歴史や伝統と工夫によってできた「湯沢凧」そのもの
が、同じく市の有形民俗文化財に指定されています。



約3百年の歴史を持ち、お正月の代表的な遊びと
して、また、魔除けや縁起物としても親しまれてき
た湯沢凧。特徴的な絵柄の「まなぐ凧」や極彩色の
「武者絵凧」「歌舞伎絵凧」が、今年も早春の空に舞
い上がります。



歌舞伎絵凧

歌舞伎の名場面に題材を得た優
美華麗な図柄で、こちらも多くの
種類があります。



武者絵凧

勇壮剛健な武者の一人描き、二
人描き、三人描きなどがあり、最
も多くの種類があります。



まなぐ凧

墨一色で描かれた大きな目（ま
なぐ）が特徴の、湯沢凧の代表的
な絵柄。線対称であるため、筆で
描くには経験と技術が必要です。



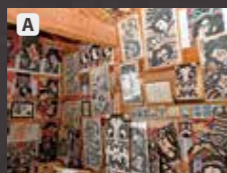
湯沢凧の魅力の後世に

おの いくろう
湯沢凧同好会会長 小野 育朗 さん

Profile

高校卒業後、湯沢凧同好会に入会。事務局、副会長を経て、平成18年同会長となる。平成8年、自宅車庫に作業場兼展示場として「湯沢凧春風館」(写真A)を開設し、明治時代からの凧を200点余り展示。凧あげ大会や展示会の開催、各小・中・高での凧作り教室や親子レクリエーションの講師など、湯沢凧の保存継承に取り組むほか、今年1月に台湾から短期体験入学に訪れた児童生徒たちへのまなぐ凧製作体験(写真B、C)など、インバウンドも視野に入れた活動も行われている。

平成5年度秋田県芸術文化協会県芸術文化章受章。湯沢市雄勝郡生涯学習奨励員連絡協議会会長。



湯 沢凧を初めて揚げたのが小学校2年生。それから65年、湯沢凧を作り、揚げ続けてきました。全国的には、空高く揚げ、安定させることを楽しむ凧が多いのですが、湯沢凧の魅力は、急降下や回転を手元の操作で自在に操れることです。操作には、骨となる竹の削り方や紙の張り、つり糸のバランスなど、製作工程一つひとつが影響します。構造が単純なので簡単に見えますが、とても奥が深いのです。

まなぐ凧の絵柄も、墨一色で単純だからこそ、難しい。左右対称に、特に目や口のカーブを一筆で滑らかに描きあげるのには、理想どおりはいきません。しかし、納得のいく凧になかなか出会えないから、より面白いし、やめられないのかもしれない。以前、凧揚げを「遊びのフルコース」と言った方がいました。竹を削り、絵を描き、組み立て、揚げる。凧揚げは、製作工程すべてが遊びになります。市内小中学校などで製作講習会を行っています。この「遊びのフルコース」を体験し、楽しさを知ってもらおうということで、湯沢凧の後継にちなげたいという思いがあります。これからも、歴史ある湯沢凧の魅力を、後世に伝える活動をしていきたいと思っています。

早春の空を変転自在に舞う

湯沢凧の特色

1. 昔ながらの単純な構造

縦骨が中央に1本・横骨3本が基本で、大きくなっても添え骨として横骨が増えるだけです。また、つり糸は縦骨と横骨の交点につけるだけという、昔ながらの単純な構造です。

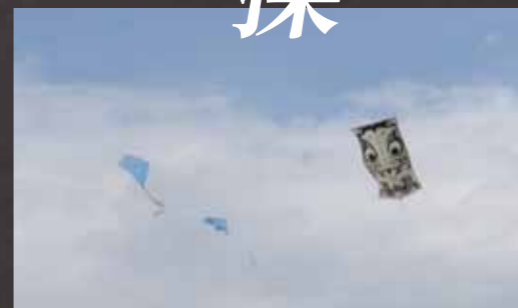


2. 高低強弱、さまざまな音色を奏でる

一番上の横骨の弦につけた紙「ピンピン」が、回転や糸の引き具合、風の当たり方により、高低強弱さまざまな音色を奏でます。



3. シippoがなく、変転自在な操作ができる



日本の凧はおおむね安定のため「シippo」をつけていますが、湯沢凧は「シippo」をつけません。「シippo」がないことで、揚げ糸の操作で左右回転、大回転、急降下など、変転自在に動かせる面白みができます。

また、糸に「カマ」と呼ばれる器具を付け、揚げ糸を相手の凧の糸に絡ませて切り合う「けんか凧」としても楽しめます。

4. 特徴的な絵柄

湯沢凧を代表する絵柄である「まなぐ凧」。左右対称、毛筆の一筆書きで描かれた特徴的な図柄は、日本の凧の中でもひととき異彩を放っています。また、まなぐ凧の下部「春風」の文字は、湯沢の厳しい冬を耐える人々の、天に向かって「春よ早く来い」と願う気持ちが込められています。



日本の凧は「絵柄だけ」または「文字だけ」が描かれた凧が一般的ですが、まなぐ凧は絵柄と文字、両方が描かれる珍しい凧でもあります。

大空を舞う、伝統をつなぐ思い

第67回 湯沢市凧あげ大会

日時 3月17日(日) 午前9時30分～(受付は午前9時～)

場所 B & G 海洋センター広場前(雨天のときは健康ドーム) 参加費 無料(参加賞あり)

問合せ 観光・ジオパーク推進課観光振興班 (☎55-8180)

雄勝郡会議事堂記念館企画展

湯沢凧展

期間 ~3月31日(日)

時間 午前8時30分～午後5時

場所 雄勝郡会議事堂記念館

問合せ 生涯学習課文化財保護室 (☎55-8193)